

令和4年度 校長より ⑨

10月17日(月)に、県高P連湘南鎌倉地区大会が茅ヶ崎市民文化会館で実施されました。これは、湘南鎌倉地区の県立高校15校のPTAが連携協力して主催しているもので、コロナの関係で今年度は3年ぶりの開催となりました。前半は、開会式後に講演があり、リクルートEd-tech総研の山下真司所長より、「これからの社会を生きる我が子の進路選択にどう向き合うか?」をテーマに70分ほどのお話を伺いました。子どもの成長のためには、コンフォートゾーン(快適領域、居心地のよい場所)からパニックゾーン(不安領域、ストレス・負荷のかかる場所)へ出られるようになることが大切であるが、親のできることは、まずはラーニングゾーンもしくはストレッチゾーン(ちょっと不安領域、ちょっとストレス・ちょっと負荷のかかる場所)へ導いてあげることではないか、とのお話が印象的でした。また、後半は、2校のPTAから研究発表があり、コロナ禍での各校のPTAの取り組みについてお話をうかがいました。茅ヶ崎北陵高校は、「北陵PTA! Z世代に続け! ~出来ることからデジタル化」をテーマに、対面重視の活動からLINEミーティングを有効活用した活動へと取り組んだこと、藤沢総合高校は、「コロナ禍でのPTA活動を見直しスリム化へ~委員の負担軽減~」をテーマに、活動が制限される中で、PTA活動を出来る人が出来る時に出来ることをやるというスリム化へと取り組んだことについての発表を聴かせていただきました。本校のPTA活動にも大変参考となる内容でした。来年度については、本校が研究発表を担う予定となっています。今年度の発表を参考に、PTAの委員の皆さんは準備をいただきますようよろしくお願いいたします。

10月21日(金)には、1・2年生を対象に横浜能楽堂で能・狂言教室が行われました。本校では2年に1回実施してきた行事でしたが、コロナの影響により平成29年度以来の5年ぶりの開催となりました。教室開始に当り、鎌倉能舞台の中森貫太氏から演目の概要説明を受けた後、狂言「仏師」と能「小鍛冶」を鑑賞しました。生徒たちは、前日に中森氏より事前学習として1時間半の講義を受けていたこともあり、舞台が始まると、一種独特で奥深さを持つ日本の伝統芸能の世界に引き込まれていました。鑑賞後には講師に対して、次から次へと質問が出されました。結びには、講師から、今日から能・狂言を見たことがあると言えるようになった、能・狂言に限らず日本の文化を学ぶことが将来の自分に役立つようになる、いつしか生徒たちの中から能・狂言の世界に進む人が出てきてくれることを願っているとの話が生徒たちにあり、閉演となりました。

11月2日(水)には、2学年の学年懇談会が行われ、当日欠席を含め総勢194名の保護者にご出席いただきました。冒頭、学校代表として副校長からご挨拶をさせていただき、その後、ベネッセからの講師である清水氏より、1年後に迫る大学入試に関する情報提供、特に模擬テストの判定については結果を鵜呑みにして志望校を変更する必要はないなど、保護者としての受け止め方についての具体的なアドバイスをいただきました。参加された保護者の方々は、熱心にメモを取るなど、お話を聞き入っていました。また、今年度より学校で仮に導入しているベネッセのクラッシーについての運用方法等の説明もいただきました。なお、クラッシーについては、今後、生徒、保護者の方々の声を参考にしながら、来年度本格導入をするかどうかを検討してまいります。最後に、8日から出発する修学旅行において保護者の皆様にご理解をいただきたい事項等について旅行業者より説明させていただきました。修学旅行が2年生たちにとって一生の思い出となることを心から願っています。

令和4年11月

神奈川県立大船高等学校 校長 幸田 隆